

## 研究機関名：東北大学

受付番号： 2014-1-748
研究課題名 頭頸部癌適応放射線治療の適応確立に向けた基礎研究：外部放射線治療期間中の肉眼的腫瘍体積変化と臨床因子間の関連調査
研究期間 西暦 2015年 3月（倫理委員会承認後）～ 2015年 9月
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 _____） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 _____） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（東北大学病院診療録、放射線治療計画装置内治療計画データ） 上記材料の採取期間 西暦 2013年 4月～ 2015年 1月
意義、目的 [頭頸部癌に対する放射線治療の背景と問題点] 放射線治療は頭頸部癌の根治的治療の一環として行われているが、治療期間内における病変の縮小や体重減少等の為に、治療効果の減弱や有害事象の増悪の可能性が是迄に幾つか報告されている。この問題に対応する為に近年考案された adaptive radiotherapy (ART:放射線治療期間中に治療計画の修正を行う)を全症例に行うのは、費用や人的資源の問題から殆どの治療施設において現時点では困難である。その為、我々は、ARTを優先的に行う症例を後向きに探索する為に本研究を申請した。 [本研究の目的と意義] 目的は、東北大学病院で放射線治療を施行した頭頸部癌症例について、放射線治療計画装置内のデータを基にした放射線治療期間中の肉眼的腫瘍体積の変化についての調査を施行し、頸部容積の減少変化と関連のある臨床因子との関連を後向き研究により探索することである。放射線治療期間中に著明な肉眼的腫瘍体積変化を来す症例を治療開始前に予め予測出来れば、ARTを優先的に行える可能性がある。
方法 2013年4月から、2015年1月迄、東北大学病院で根治的放射線治療を施行された頭頸部癌症例について、東北大学病院放射線治療科の放射線治療計画装置に保存されている該当症例の頸部体積のデータを解析し、また、診療録調査から該当症例の臨床情報の集積を行い、肉眼的体積変化と統計学的関連のある臨床因子を後向きに探索する。尚、個人情報等は全て匿名化して保護を行う。
問い合わせ・苦情等の窓口 武田 賢 東北大学医学系研究科保健学専攻放射線治療学分野 電話：022-717-7909